

平成31年度学校経営方針

新宿区立四谷中学校
校長 東 孝 夫
説明

【教育目標】

人間尊重の精神を基盤とし、確かな知性と創造性を身につけ、心豊かで実践力のあるたくましい生徒を育成する。

目標を簡略化

- 勉学に励み新しい文化を創造する人 ⇒ よく学ぶ人
- 気品ある人間性をそなえすすんで社会に貢献する人 ⇒ 社会に貢献する人
- 心身ともに健やかでたくましく生きる力をもつ人 ⇒ たくましく生きる人

【経営方針】

<あるべき生徒像(教育目標)>

- よく学ぶ人 (向上心をもって**学び**続ける人) → **義務教育の基本**
- 社会に貢献する人 (**礼儀**をわきまえ、社会に**貢献**しようとする人)
→ **地域協働学校**
- たくましく生きる人 (**心身**ともに鍛える人) → **礎は心の教育**

<あるべき教師像>

- 教育者の立場として常に考え、判断し、実践しながら**主体性のある生徒**を育成する教師
→ 自分の考えではなく、教育者として判断し、実践していく。
※「私が〇〇の仕事をしている」ではなく「〇〇の仕事をしている私」
- **報告・連絡・相談**そして**迅速な対応**を維持・継続する教師
→ 「新鮮な情報の**報告と連絡**及び精度の高い相談、そして**迅速な対応**」が組織力を高める。
- 教育公務員として法令を遵守し、**サービスに対して自覚と責任**をもつ教師
→ 今年度はより、当たり前のことにように。

<あるべき学校像>

- 「**心の教育**」を礎に、生徒が**安心**(人権の尊重)し、**安全**(生命の尊重)に、**安定**(人格の尊重)学ぶことができる学校
→ 今年も「心の教育」を核に、落ち着いた環境の確保(環境美化・生活環境)も確実に。
- **主体性のある生徒**の育成を推し進める学校
→ 今年もkeyword。生徒に「**力**」をつけさせましょう。→それを「行事で～」確認
- 学校運営協議会・地域・保護者そして学校との**連携・連動した透明性**のある地域協働学校
→ 地域協働学校13年目 「学校が地域にある」ではなく「地域にある学校」

◎ 明確なねらい(ゴールイメージ)をもって進めていく

→ すべての教育活動には明確なねらいがあり、そしてすすめられている。

例)主体性のある生徒の育成→短期(1学期・)、中期(学年・)、長期(3年間・)等のゴールイメージを。

平成31年度の重点課題

- 全教育活動の礎としての「心の教育」を实践
- 全教育活動を通じた主体性を育む教育の实践
- 日常的な環境美化の推進

具体的な取り組み

1 確かな学力の定着の保障・・・よく学ぶ人

- ① 新学習指導要領の移行期間に当たり、指導・評価の再確認を図り、指導法の改善を検討する。
→ まずは、各教科で新学習指導要領の再確認を
- ② 教科指導の中でUD(ユニバーサルデザイン)及び主体的・対話的で深い学びを通して、教育内容の質の向上を図る。
→ 常に「主体的・対話的」を意識していきましょう。
- ③ 学力の向上及び定着を図るための安定した環境美化、生活指導を展開し落ち着いた環境の維持継続の徹底を図る。
→ 学校生活の基本中の基本ですね。
- ④ 授業アンケート及び全国・都・区の学力テストや各評価等も確実に活用しながら指導内容の見直しを確実に実施するとともに、「ICT 機器等をより活用した」教科指導法の充実を図る。
→ 生徒による授業アンケートは貴重な研鑽資料です。学力テストはどう反映させていくか要検討です。折角のICT 機器(38億)使わないわけにはいかない。
- ⑤ 読書活動を推進するとともに、あらゆる教育活動のなかで「言語活動の充実」を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。
→ まず、言語活動の充実は教師から(丁寧な板書から始まり、正しい言葉使いで)です。
- ⑥ 指導と評価についての説明責任・結果責任をシラバス及び資料等の活用のもと生徒・保護者に確実に果たす。
→ 生徒・保護者に機会あるたびに責任を果たすという姿勢を。
- ⑦ 授業サポーター及び学習指導支援員、地域・保護者との協働による学習支援(主に検定関係)を提供する。
→ いろんな人の支援の中、「分かった」、「楽しい」という声私たちの励みです。

2 豊かな人間性、社会性の保障・・・社会に貢献する人

- ① 相手を認め、気持ちを乗せた(込めた)挨拶・礼儀の習慣化の徹底を図る。
→ 日々の教育活動の積み重ねです。
- ② 意図的な啓発活動の下、認め合い、支え合い、高めあえる教育活動を展開し、主体性のある「質の高い集団」を育成する。→ 啓発と生徒主体は集団教育に欠かすことはできない。
- ③ 適性・選択、判断、決定、責任のサイクルに基づいた「計画的な生き方指導」を展開することでキャリア教育の質の向上を図る。
→ 本校の進路指導の目指すところです。
- ④ 特別支援学級(新苑学級)と通常学級との交流をより積極的に図るとともに、合理的配慮のもと特別支援教育への指導力を高める。
→ 交流できる場面を多く設定することで意識を高めさせていきましょう。

3 健康な心身と安心安全な学習環境の保障・・・たくましく生きる人

- ① 主体性のある生徒の育成を積み重ね、各行事にその育みを結集させることを通して達成感を味わわせる。
→ 「行事で生徒はより育つ」です。
- ② 「心の教育」をより充実させ、豊かな心を育成するために「特別な教科 道徳」を基盤とし、「道徳的視点に立ったあらゆる教育活動」を推し進める。
→ 道徳及び道徳的視点に立った教科指導。学校運営協議会、PTAとの連携も図っていきましょう。
- ③ 「いじめ・体罰」等の問題は、QU や定期的なアンケートを行い、生徒の変容を常に全教職員で共有し、「未然防止」・「早期発見」・「早期対応」を図る。また、SOS の出し方に関する教育を計画的に取り組む。
→ まずは、私たち教師のアンテナから
- ④ スクールカウンセラー、保健室、職員室との役割を明確にし、SSW、子ども家庭支援センター等外部機関との連携を密にすることで教育相談活動の充実を確実に図る。
→ どの子も悩みを抱え、それが表に出るかどうかの違い。内面は分からないものです。
- ⑤ オリンピア精神の基、障がい者教育の推進を図りながら東京2020オリンピック・パラリンピック教育を計画的に取り入れるとともに、英語教育の充実及び保健体育科を中心に体力向上を図り、心身の成長を促す。
→ 国立競技場を学区域に持つ本校、そして最先端の実践ありきということでしょうか。
- ⑥ 部活動を学校教育の一環とし、教育課程との関連のもと、「人間形成及び健康な心身」を育成する。
→ 学年を超えて人間関係づくりや人間形成のための重要な活動です。
- ⑦ 特別な支援を必要とする生徒の対応について「校内委員会」を中心とし、巡回相談等の支援チームを活用しながらすすめる。→ まずは、全教員で校内委員会を中心に、そして巡回相談を研修の場に。

教員としての研修及び教育活動の推進

<教員としての研修>

- ① 機会あるごとに、人権教育を推進し、生徒が安心、安全に、楽しく学ぶことができる教育を推進する。
→ まずは私たち教師から。
- ② 教育の前例を踏襲するのではなく、今の生徒にあった教育を提供する。
→ 踏襲は衰退のはじまり。
- ③ 公務員として、コンプライアンス(法令遵守)の徹底を図るとともに、「教育者としての視点」を常に持ち続ける。
→ 当たり前のことのように。
- ④ 質の高い教育活動を展開するために、OJT(内)研修、Off—JT(外)研修を通して「教員の資質向上」を確実に図る。→ 教育公務員特例法第21条「研究と修養につとめなければならない」でした。
- ⑤ 来校者、電話の対応等、接遇の視点を踏まえた「丁寧な対応」を行う。
→ 「社会人という意識」は言うまでもありません。(生徒のモデルが私たち……)

<教育活動の推進>

- ① 事故、事件だけではなく教育活動全般についての確実な「報告・連絡・相談そして迅速な対応」を維持・継続する。→ 確実に徹底していきましょう。
- ② 「自分の命を自分が守る(自助)」をモットーに危機管理マニュアルに基づいた避難訓練等を計画的に実施する。
→ いつくるかわからないという危機感と、「普段できないことは、本番でできるわけがない」です
- ③ 生徒の自治能力活動を重視する「学級・学年・生徒会活動を重視」する。
→ 本校がまさしく実践していこうとしているところですね。
- ④ 食に関する計画、保健に関する計画のもと、健康や食について関心を高めさせ、「健康づくり及び給食も含めた食の安心・安全・安定」に繋げていく。→ 食育の大切さ、保健とともに健康な心身の源ですね。
- ⑤ 学校・学年・学級・保健・給食だより、ホームページ等様々なメディアを通して日常的な教育活動を正確に伝え、一方通行ではなく「双方向な広報活動」を推進する。
→ 引き続き取り組みをお願いします。各たよりからのリターンが欲しいものです。
- ⑥ 学校運営協議会・地域・保護者と連携・連動した透明性のある教育活動を進める。
→ 昨年に引き続きになります。具体的に進めていきましょう。
- ⑦ 主事会(都・区主事及び栄養士)と連携・連動した教育活動を展開し、主事会からの教育改革を充実させる。→ 主事さんは学校教育を客観的な視点で唯一見ることができます。
- ⑧ 日常的な「環境美化」に取り組ませ、落ち着いた環境を生徒に提供する。
→ 学力の定着は、落ち着いた環境づくりから

【学校運営協議会の経営方針】

【地域協働学校 ～四谷の子どもは四谷で育てる～】

- 今年度もこれをさらに徹底浸透そして大切なスローガンとして
- 地域と学校がともに**主体性**のある生徒の人間性・社会性を磨く
- 地域と学校がともに生徒の**意欲・能力・可能性**を高める
- 地域と学校の**互惠関係**を深める

平成31年度の**重点課題**→ 新たな部分★があります。

学校運営協議会による取り組みを明確な**ねらい(ゴールイメージ)**をもって進めていく

<生徒に対して>

- 四谷地域を知り、地域に入らせる

<学校・PTAに対して>

- 学校・PTAとの連携・連動した透明性のある活動
- ★ 小中連携協議会におけるモデル校としての推進

<地域に対して>

- 地域発掘・人材確保
- 地域との連携・連動した透明性のある広報活動

- 1 学校・地域・PTAとの協働による、より良い学校生活に向けた取り組みの推進
 - ① 地域との協働活動に**主体的**な生徒の参加及び地域の思い・考えを学びながらの「社会性の向上」 → 「ボランティア活動」の活動内容の再確認と、生徒へのボランティアの**意義の徹底浸透**
 - ② 学校・地域・PTAが互いに**連携・連動した透明性**のもと、「学校・地域・PTAが一体」となった質の高い教育活動の展開と互惠関係の充実
 - 地域・PTA・生徒・教員が「何しているか分からない(知らない)」は避けたいものです
 - ③ **モデル実施校(小中連携型地域協働学校・地域との連絡会)**として、四谷地区小学校及び地域と一体となって生徒の学びの環境の充実及び地域を担う人材の育成を図る。
 - 平成32年度新宿区全校実施を目指し、より知恵の結集したモデル校を目指すこととなります。
 - ④ **小中連携協議会**のモデル校として、「**防災教育**」を中心とした四谷地区で「育てたい子ども像」を共有しながら、社会・地域に貢献しようとする子どもを育成していく。
 - 平成31年度からの、地区の小学校三校と四谷中との連携事業になります。
- 2 職場体験・職場訪問・生き方学習・**心の教育**の地域、外部支援の充実
 - ① 「**地域発掘・人材確保**による支援」による学校との厚い協働体制づくり
 - 四谷の特色(印刷、放送関係等)を生かす ※職場探求フォーラム
 - ② 各行事や教育活動についての学校運営協議会の「在り方、関わり方」についての再確認及び支援体制の充実
 - 地域、外部からの各行事への支援による、学校運営協議会の在り方、関わり方の再確認
 - ③ 学校と連携・連動した「**心の教育**」の推進
 - 学校運営協議会の計画的な**授業参加**を踏まえながら、「心の教育」の発信源に。
- 3 学校・地域・PTAが一体となった安全管理・防災の取り組み
 - ① 地域・学校・PTAが一体となった「**安全教育(交通安全・災害安全・火災安全)**」の推進
 - 関係機関(警察・消防等)との連携による**実効性の高い**安全教育の見直し
 - ② 地域防災訓練を通した学校との「**協働実践**」
 - 精度の高い地域防災訓練を通した実践への取り組み
- 4 学校評価・学校広報活動の充実と最適な学習支援の実施
 - ① 学校・保護者・生徒による「**内部評価・外部評価の充実**」
 - 各評価や評価者の関連付けを考えた取り組み、次回、次年度に確実に生かす
 - ② 授業サポーターによる学習支援及び保護者・地域の外部人材による明確なねらいに基づいた「**学習支援の工夫**」
 - さらにステップアップさせる具体的な支援体制と学習意欲の高まりを追求